

3

トークス

Talks

富里市区長会

区・自治会長インタビュー集



は じ め に

「答えは富里の中にある」

令和3年。新型コロナウイルス感染症拡大により、区・自治会活動は大きな制約を受け、これまで以上に区・自治会活動を行うことが難しくなりました。

そのような中、富里市区長会では、市内の区・自治会活動の一助となる事業を模索していました。

「他の街の事例を紹介する講演の依頼を考えている」と、杉山さんにお話ししたところ、

「他の地域の事例を学ぶのも良いことですね。でも、富里の皆さんから学びましょう。富里市の自治会は立ち上げから独自の歴史を持っているので、現場で奮闘されている皆さんの実践の中にこそ、本質と未来があります」と。

こうして始まったのがこのインタビュー事業でした。

3冊目となるインタビュー集「Talks」は、4名の区・自治会長の皆様にご協力をいただきました。今回も、コミュニティを育てる想いのこもった貴重なインタビューとなりました。本書「Talks3」をご覧いただいた皆さんにその想いが届き、地域活動の一助となれば幸いです。

おわりに、インタビューを快く引き受けてくださった区・自治会長の皆様、インタビュー事業に御協力いただいた杉山様に感謝申し上げます。

令和7年3月 富里市区長会



インタビューア紹介



すぎやま みきお
杉山 幹夫

信州大学農学部在学中から農村や共同組合の調査を通じ、住民や地域の企業のネットワークの研究を行う。

札幌市の観光案内サイトの編集長をしながら、イベントプロデュース。地域ブランドの研究を東京大学情報学環で行ったあと、和歌山大学の客員教授として、産業振興、観光による地域振興、住民による情報発信などを研究。

札幌で北海道中小企業ネットワーク・地方自治研究所を立ち上げ。現在、沼田町関係人口創出アドバイザー、宝水ワイナリー取締役など。



富里市区長会
区・自治会長インタビュー集

目 次

- 南七栄区会
区長 五十嵐 研一さんP 2
- 太木区
区長 伊藤 忠典さんP 4
- 富里台自治会
自治会長 久保園 悟さんP 6
- 久能区
区長 鈴木 政雄さんP 8



南七栄区会

区長 五十嵐 研一さん

に聴きました

■区長になられたのは？

区長は4年目になりますね。生まれは福島で、色々な所を転々としたんですけど、最終的にはここに住むことになって、45年も経ちました。

退職した後、お年寄りの移動支援をする「富里ビークル」って言うNPOの仕事を空いた時間で手伝うことになったんですけど、ここの区長だった方が携わっていて、その流れでなんか軽い気持ちで区長に（笑）。

■区長をやられてみていかがですか？

みんなの世話役みたいな感覚ですね。良かった事と言えば、色々な人と顔見知りになれたことですかね。日常で起こる些細な話は色々いただきますけど、ここ数年、特別大きな揉め事や問題がないので、面倒だなと感じる時はあっても、しんどいなと思ったことはないですね。家でボケっとしていたよりはいいですね。それに、この自治会は事務員制度が出来上がっていて、長くやっている事務員さんがいてくれるから、細かいことは全部やってくれるし、分からないことも聞けば、「前はこうやっていましたよ」って教えてもらえるし。ほんとに、この制度を作ってくれた前の役員の方々や事務員さんには感謝ですね。事務員さんがいてくれば、ちゃんと回っていくから、安心して区長を努められますよ。

■お祭りは？

お祭りはコロナで中止になっていましたけど、今年5年ぶりにやるんですよ。それで今、準備で大変なんです。人手も足りなくて。今回は、出来るだけ労力がかからないように手間のかかる焼きそばと焼き鳥は露天商にやってもらって、やぐらの組み立ても外注します。その他の飲み物とか、かき氷なんかの簡単なものだけ班長さんたちにやってもらうことにしました。

山車もあるからやりたいんだけど、山車を引ける人が少ないし、子供の神輿もちゃんと担げるように毎年面倒を見てくれてた方が「高齢でもうできない」ってことでやれないんです。昔やっていたことが全部できるわけじゃないけど、出来る範囲でやって、みんなが「楽しかったね」で終わればいいのかなと思っています。

■防犯活動が盛んですね。

そうですね。防犯活動は、前の区長さんたちが作ってくれた体制を変えずに続けていて、6つのブロックに分けて順番に団地を回ってもらっています。その他にも市から借りた青パトで団地を回ってくれる方もいるし、月に1回ですけど、移動交番としてお巡りさんにも来ていただいていますね。

■自治会館の見える棚に防災用品が整理整頓されて置かれていますね。

防災用品は少しずつですが、揃えるようにしています。事務員さんが整理してくれていて、あえて自治会館の見える場所に置くようにしました。

この自治会館が避難先になるから、いざという時に近くにないと意味がないですからね。小学校の防災倉庫までは距離があるから、土砂降りの雨の中だと取りに行くのは大変だし、車が使えなくなる可能性もありますから。ありがたいことに、この自治会館は広くて置けるスペースがあるから、そうさせてもらいました。

■区長になって新しく始めたことは？

別にお話しできる程の事はやっていませんけど、先ほどの防災用品以外では、中小企業退職金共済に加入したことですかね。

事務員さんには長いこと千葉県の最低賃金で働いてもらってるんだけど、この前、長く勤めてくれていた方が辞められた時に退職金も出せなくて、悪いことしたなと思ったから何とかしたくてね。

■区長として心掛けていることはありますか？

威張らないことかな。勘違いして威張っちゃう人っているんだよね。区長って、ただの役割だから。特別偉いわけでも何でもないし、自分は大したこと出来ないから偉そうなことなんて言えないよね。自分が何でもできれば、多少威張ったりするかもしれないけど、本当にできないからね（笑）。

■自治会での課題は何かありますか？

私も含めてですけど、多くの人が70歳過ぎ、80歳近い人で、現役でやれるのもあと何年かでしょ。空き地の草刈りは地主からいただいている会費を原資にして、団地のみんなにお願いしてやってもらっているけど、やれる人がいなくなったら、シルバー人材センターとか業者に委託してやってもらうしかないかなとか考えています。

あとは、なんとかしたい課題としては、路上駐車とごみの捨て方ですかね。

■自治会活動って何の為にありますか？

出来るだけこの団地を清潔にして、みんなが安全に暮らせるということが一番じゃないかな。回覧で回したこともあるけど、団地を綺麗にしておけば、皆さんの持っている家や土地の資産価値が上がるかもしれないよって。例えば、条件の変わらない同じ規模の団地があったとしたら、綺麗で安全な方を選ぶでしょ。そうすれば、新しくここに住んでもいいなと思う人が増えるかもしれないし、多少でも高く売れるかもしれない。結局、自分たちのためになるんじゃないのかな。

物事をやめるのはすごく簡単なことだけど、新しく何かを始めるのは大変で、一見無意味に見える活動でも、まるっきり無意味ではないから。防犯活動で言えば、もちろん防犯のための活動なんだけど、それ以外にコミュニケーションの場という意味も大きいと思っています。お祭りでも防犯活動でも何でも人が集まって何かやるってことが一番大事なんだよね。

担い手の不足はあるけど、若い人は仕事も忙しくて、無理に参加してくれとは言えないから、今まで100人でやっていたことであれば30人でやれるように仕組みを変えていけば良くて、そうやって仕組みを変えながらも、みんなの顔を繋げられる機会だけは何とか続けて残しておきたいなと想いながら自治会活動を続けています。



自治会館に置かれている防災用品



たい き 太 木 区

区長 伊藤 忠典さん

に聴きました

■太木区は昔からある地区なんですよ？

じいちゃんとか周りの先輩達からは、戦前から戦後にかけて生活環境が色々に変化する中で周りの地区と意見が合わなくなって、戦後間もない昭和 24 年頃に、この周りの人たちで独立して太木区ができたと聞いています。

どこまで本当の事なのかわかりませんが、そんな話を鵜呑みにして育ったから、訳もなく周りの地区に対してライバル心みたいな物を持っていたね。今はそんなことは全然思わないけど。当時は他の地区の子から売られた喧嘩を買っちゃうとか、やんちゃしてましたよ。大きく言えば、地域のために自主防犯活動をやったって感じですかね（笑）。

でも、今思えばそんな気持ちが逆に地元意識を育てることになったのかもしれないですね。

■ずっと富里にお住まいなんですね。

南小から富里中、高校は成田高校だったんですけど、友達が皆大学に行くから、自分も行くつもりでいたんだけど、うち貧乏だったから「就職しろ」って。顧問の先生のツテで3年間フランスに留学できる都内の会社が決まってもう行く寸前だったんです。そしたら今度は「お前、東京に行くのか」って言われて。それで地元で就職することに。田舎で世襲制でしたからね。

そんな環境だったから、二人の息子には「20歳までは面倒見るけど、あとはどこでも好きなようにしろ」と。今は二人とも自分で家建てて独り立ちしていて、孫は5人になりました。

縛られて結果的にずっと富里にいたんですけど、昔からの地元の人間っていうのは、大人になると、「地元のために」っていう気持ちが芽生えてくるっていうか、自然に湧いてくるんじゃないですかね。富里での思い出が濃いですからね、僕は。

■小さい頃はどんなことを？

田んぼに行ってオタマジャクシとか、エビガニ獲ったり。この辺では「みよ」っていう田んぼの脇を流れる小さな川みたいなところで、ミミズでフナを釣ったりしてましたね。今は、川もコンクリートで整備されちゃったけど、昔は、夕方になると親父に「ちょっと行くぞ」って、田んぼにタニシ獲りに連れていかれて、それが夕飯の味噌汁になったりもしました。

南小までは4キロあるんですけど、季節になると、アケビとかスカンポって植物の茎を採って食べながら通ってましたね。昔はゲーム機があるわけじゃないし、ここは純田舎ですから（笑）。

■区長になられたのは？

区長は皆さんから推薦されてって感じですけど。でも、区長とか色々な役員をやっているとすごく頭を使うから若さを保つのにはいいですよ。変な話、ぼーっとして過ごしてるよりは。まあ、嫌な方にとっては嫌なんでしょうけどね。

区長をやらせていただいたのも生まれ育った地域のために少しでも自分が力になれるような

ものがあれば、貢献したいという気持ちがどこかにあったんだと思います。

■太木区はどんなところですか？

以前は14、5軒ありましたが、11軒に減ってしまって、ほんとに小さな地区なんです。

ここは、畑がほとんどで、高崎川沿いに広がる田んぼの向こう側には、立沢台や東立沢があって、最近では太木区にある公園が市の花火大会の打ち上げ場所になっています。

昔は農家も多かったんですけど、今は1軒だけが農家を続けていて、その唯一残った農家さんは、天皇陛下に人参を献上したことがあるんですよ。

■綺麗に手入れされた神社がありますね。

みんなで少しずつ貯めた区費を使わせてもらって最近改修したんですよ。親父の代の頃はあそこでカラオケ大会とかやっていたみたいです。他の地区には集会所がありますけど、あそこが我々にとっては区の中心で集会所みたいなものですね。

祭り事は、10月の『^{かなめまつり}神嘗祭』と2月の『^{はつまつ}初午』の2つだけになりました。その時にみんなに集まってもらって交流を深めています。みんな勤め人だからそういう事がないと集まる機会がないですからね。

■区長以外の地域活動は？

南小学校区には300世帯以上ある立沢台や葉山区みたいに大きな自治会もあるんですが、南小学校区の防災連合会の代表もやらせてもらっています。2019年の台風の時に長期間の停電や断水を経験したので、一人でも多くの人に防災の意識を持ってほしいという想いがある。

防災訓練は今年で4回目になります。役員さんは大変ですが、打ち合わせのために毎月集まってもらって、今回は500人ぐらいに参加してもらって計画を立てています。今までのやり方を僕なりに考えて色々変えてきてはいますが、それぞれが

助け合う共助の気持ちを引き継いでいける土台ができれば良いと思っているだけで、この先、代表になった方が、その都度考えてまた変えてもらえばと思っています。

■立沢台や東立沢の団地ができ始めたのをご覧になっていたんですね。

高校生の頃だから、今から50年前ですね。当時、三遊亭円楽が団地のCMをやったんですよ。その頃から街の変化は確かにあるけど、人間関係ってというのは昔からそんなに変わってないと思うんですよ。

団地の人を新住民って言うことはありますが、後から富里に来た人達とは一緒にやりたくないとか、うちの地区だけでやればいいのかなんてことは全然思わないですね。防災連合会もそうですけど、同じ小学校区だし「僕らが協力できる事は一緒にやりましょう」って気持ちでやってますね。

■今回は、古くからの富里と新しい団地が出来た頃の話が繋がるインタビューでした。

区長会の会議の中でもお話していますが、自治会活動って世帯数が多いとか少ないとかはあまり関係ないと思っていて、皆さんの熱意みたいなものは変わらないと思うんですよ。

今回のインタビューを引き受けさせていただいたのも、小さい地区ですけど昔からある太木区のことや、富里のことを知ってもらおう一つのきっかけになればいいかなと思って。でもまあ、それを僕がうまく伝えられたかどうか分かんないですけど（笑）。



太木区から東立沢を望む



富里台自治会

自治会長 久保園 悟さん

に聴きました

■なぜ富里を選ばれたのですか？

富里に来る前は、環七沿いの亀戸にいたんですけど、排気ガスもあって子どもが喘息気味で。どこかに引っ越そうかという話でね。もうその頃のことはよく覚えてないけど、家族サービスしようって想いもあったのかな。

そんな時に住宅雑誌をめくってたら、間取りとか角地で土地もいいなと。私は全国を回る仕事で家にいることが少なかったから、通勤時間を気にしなくてもいいし、場所にこだわりがなくて。それでたまに。でも、ここに住んで後悔はしてないし、良かったと思ってますよ。

■ご出身は？

実家は桜島の目の前の鹿児島市内で牛乳屋をやってました。高校は鹿児島実業でした。今は共学になりましたけど、当時は男子校で、ベンチャーズが流行ってたから、4、5人でバンドを組んでエレキギターを弾いてました。

その頃は、エレキギターやってるだけで、不良だって言われる時代で、高校に親を呼ばれて怒られたこともあって、勉強をしていた記憶がほとんどないんですよ。でもね、小学校、中学校はちゃんと行ったから、字も書けるし、計算も少しは出来ますよ（笑）。

■全国を回る仕事って？

高校の先生に勧められて先輩がいる東京の会社に就職したんです。その会社は、東京電力の送電鉄塔とかNTTの無線鉄塔を作る会社で、その工事部門で現場監督を長くやってきました。全国を回って鉄塔を建てたり、トンネルの照明を取り付ける金物や地中線を支える金物なんかも作ってたから、そんな現場もやってきました。現場監督だから施行計画書とか工程表を組んだり、予算も全部自分で決めて、見積書作ったりして。小、中学校でちゃんと勉強しててよかった（笑）。

職人たちと一緒に寝泊まりして、仕事が終わったら飲みに行つて。北海道から沖縄までほとんどの都道府県を回りましたよ。そういう仕事を40年もやってきました。

今は、愛犬の餌代を稼ぐのにパートに行ってますが、ほんとに「お父さん、もう仕事いいわよ」って言ってもらいたいんだけどね（笑）。そうすればもうちょっと自治会の事に専念できるんですけど。

■自治会で新しく始めたことはありますか？

この団地にも昔は子ども会があって、公園でお祭りをやってたんです。カラオケのセットも組んだりして。今の子どもたちはこの団地での思い出が全然なくなってたので、去年から仲間を集めて子どものために焼きそばとか豚汁とかの炊き出しをやってみたんです。親までは中々集まらないですけど、子どもたちは来てくれましたね。

若い親の世代の人たちが何かやりたいとか言ってくると、我々年寄りが段取りして、張り切って頑張れるんですけどね。まあ、私も若い頃は

団地の事は全部奥さんに任せっきりで、興味を持ってなかったですけどね。

あとは、団地の草刈りですけど、高齢になってきたから外部に頼んだ方がいいんじゃないかという話があるんです。でも、団地は我々で守るべきだと思っているので、協力隊を作ったんです。一軒ずつお願いに回って団地の維持管理に協力してくれる人を登録しています。登録した人がみんな草刈りに参加してくれるわけではないですけど、いざという時には協力してもらえることがあるんじゃないかと思って。

■根木名小学校区は連合会の活動が盛んですね。

そうですね。周りの地区の人から「根木名はまとまってるね」って言ってもらえることがありますよ。根木名学区連合会は、根木名小学校区の自治会の他に子ども会とかPTAとか色々な団体や協力してくれる人たちで組織していて、子ども教室を年7回かな。あと、校庭で納涼祭も。根木名小を中心に色々なお手伝いしてますね。根木名ニュータウンの長谷川さんがリーダーになって色々企画を考えてくれて。同じ地区の人が一生懸命やっている姿を見ると協力したくなっちゃうんですよね。でも、お手伝いしてるのは年配が多いから、机とか椅子を運ぶのが大変で（笑）。

根木名小学校も子どもが少なくなったけど、子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿を見ると嬉しいし、元気が出ますよ。

■管理組合もあるんですね。

今は私が管理組合も兼務させてもらっています。管理組合では防犯灯とか集会所なんかの共有施設を管理しています。この団地も前は浄化槽があったんですけど、皆で貯めたお金もあって、下水道に繋げることができたんです。その時は、管理組合として市や業者と色々やり取りをしましたね。

ここは、管理組合と自治会の2つの組織を運営

してるので、何とか負担を減らしたいなと思って、今までそれぞれでやっていた役員会を合わせてやることで会議の回数を減らしました。それによって、お互いの情報の共有もできるようになりましたね。組織の形とか中身については、これからみんなで決めていくことになります。今まで慣れた形をあまり変えずにみんなの負担が軽くなるようにしていきたいと思っています。

■自治会活動をやった良かったことは？

色々な人に出会えることだね。団地の中もそうだし、この周りの地区の人とも交流する機会があるし。家族構成やどんな方が住んでいるとか、団地のことは大体、頭に入りましたよ。

それで、知り合った人と飲みに行って、いろんな話をして。それが一番で、宝物ですね。だから、続けていきたいって気持ちも出てくるんですよ。

続けてやっていることをみなさんはどう思っているのかなとか考えますが「お願いします」と言われると、私が続ければ他の人が苦勞しなくて済むとか、経験してる分だけスムーズにいくのかもしれないなとか思いながら引き受けさせてもらっています。

少しでもこの団地のコミュニケーションが増えればいいなと思いながら活動していますが、あれもやらなきゃ、これもやらなきゃって、自分ではプレッシャーを感じてます。でも、頭悪いのに、何もしなくなったら、もっと頭悪くなっちゃうから、やらせてもらえてありがたいですよ（笑）。



根木名小学校で行われる納涼祭

区長 鈴木 政雄さん

に聴きました



■区長は2年目になりますね。

そうですね。区長のやることを1年かけて覚えたのに「じゃあ次の人に交代ね」って、非効率だなと思って。市の補助金も前年度に計画して、実際に補助金を使うのは次の年でしょ。今まで2年続けてやった方はいなかったんですけど「私が次も続けるから、2年ぐらいずつ交代した方がいいんじゃないですか」って言って。

■区の役員はどのように決まるのですか？

昔から、2年ごとに10人の理事を選ぶ選挙をしていて、1戸に1票で区の名簿から10人の名前を書いてもらって封筒に入れるんです。それを理事立ち合いの元で開封して、上位10名が理事になって、その理事みんなの話し合いで、区長・副区長・会計の3役が決まるんです。

■ご実家は農家をされていたのですか？

農家だったんですけど、親父が菜種を仕入れて、絞って油にする加工場を自宅で始めたんです。だから、うちの屋号は「油屋^{あぶらや}」でした。

親父は7人兄弟の長男だったんですけど、長男は一年中家業で自由な時間が滅多に無かったから、油を納めに行っては色々遊んでいたみたいです。油を売りに行って、油を売ってたんですね(笑)。

そんな親父に「将来、農業は厳しくなると思うから別の道に行け」と言われていたので、農業土木課のある高校に進みました。ちょうど戦後の景気の悪さから復興して高度経済成長に入った頃だったので、情勢を読んでそう言っていたのだと思います。

高校卒業後は、エンジニアとして東京に本社のある中堅のゼネコンに就職しました。全国展開している会社だったので色々なことをやりましたね。海の仕事から始まって、宅地造成や建築もやったし、鉄道や成田空港の仕事なんかもやりましたね。

富里には、親父の具合が悪くなって40代の頃に戻ってきたんですけど、その会社には定年を過ぎてても勤めていたので50年いましたね。

■久能区の歴史は古いと聞きました。

そうなんです。集会所の隣にある駒形神社は300年以上の歴史がありますね。利根川がまだ香取海と呼ばれていた頃は川港のような地形で、今もこの辺は谷津とか谷地^{やち}って呼ばれる地形が残っていて、大昔から米が作られてきました。

地名の由来は静岡県の久能山から来ているそうです。久能区には日蓮宗の潮音寺というお寺があるんですが、潮音寺が久能山と繋がりがあって、それで「久能」になったと聞いています。

久能は、藤崎家一族が佐倉藩の堀田家から牧士としてこの地区を与えられて治めてきたという歴史もあって、地元の名士として周りから慕われ、何か困り事があたら藤崎家に相談していたそうです。当時はそうやって、信頼があつて地域の問題を仲裁できる人が地元を治めていたんですね。

■区としての課題は？

高齢者の独居世帯が増えてきて、区から離れていく方が増えています。子どもたちは外に出てしまい夫婦二人暮らしをしていたけど、連れ合いに先立たれてしまって「区の行事にも参加できないので迷惑かけるから」って。

それから、耕作放棄地が増えてしまっているんですね。今の時代は、小規模な農家の経営は難しいから、農家を継ぐ人が減ってしまって。でも、久能は成田空港も近いし、成田駅にも近いから可能性のある土地だと思っているので、この耕作放棄地を利活用して何かできないかなって、区長になってから考えることが多くなりましたね。

■地区のお祭りは？

春の田植え時期には五穀豊穡と安泰を願って、8月の終わりの稲刈り時期には収穫のお礼として、11月頃には来年の田植えの準備に向けてお願いをするための祭りが駒形神社で行われています。その他には、神社総代と当番が交代する時期に藁で作った的を弓矢で射ることでその年の豊作を占う御奉射^{おびしや}という神事もありますね。

新しい団地でやっているお祭りは、地域のコミュニケーションのためという意味合いが強いと思いますが、ここでの祭りというのは、農村の生活の節目節目の神事として行われてきているんですね。

■伝統行事を残していきたいですね。

私がまだ小さい頃は、お祭りの日が唯一農作業を休めて酒が飲めるって時代だったから、出店が出るほど盛大にやっていたけど、今は農家をやっていない人が大半で、その歴史を引き継ぎながら続けることが難しくなっていますね。

お祭りとその後に行われる宴会には農家の長男の後継ぎしか参加できない時代があって、それは久能で続いている獅子舞も同じだったんです。

久能の獅子舞は市が指定する無形民俗文化財で、歴史を遡ると300年以上も前に駒形神社で獅子舞の奉納が始まったとされています。

十数年前ですかね、私が区の会計をやっていた頃に、子どもが少なくなって獅子舞を見学に来る小・中学生もいないから今後どうしようって話になって。農家の長男がいなくて、続けられないならその時点で辞めてしまってもいいと。そこを変えたら伝統ではなくなるし、伝統は守っていくから意味があるという意見もありました。でも、私は、家を継いでいる人であれば後継者として迎えるようにしても良いのではという想いがあって「少し敷居を低くして後継者を広く求めたらどうか」と口にしたことがありましたね。

そんな歴史のある獅子舞は一時中断していた時期もあったようですが、今は、獅子舞保存会の有志が集まって再開してくれたおかげで、伝統が引き継がれています。

■今までのやり方だけにとらわれない考え方はどこから？

私は、久能生まれだけど、一度外へ出て戻ってきたので、ずっと久能を見続けてきた方とは違う感覚があるのかもしれませんが。

獅子舞に限らず、後継者の問題はまた出てくると思いますけど、伝統って守るべきところはもちろん守って、それと同時に変えるべきところは変えていかないと受け継いでいけないと思うんですね。

獅子舞をやりたいとか、久能に住みたいって言うってくれる人がこの街にいらなくても必ず外から来てくれることを信じていますので、その人たちが入りやすいように私たちは扉を広く開けて待っていないといけないですね。



久能の獅子舞

トークス 3

Talks

富里市区長会
区・自治会長インタビュー集

編集・発行

富里市区長会

事務局

千葉県富里市七栄652番地1
(富里市総務部市民活動推進課内)

電話 0476-93-1117

FAX 0476-93-4123

令和7年3月発行